

報みょうとく

題字 松川裕子

浄土真宗本願寺派妙徳寺
(安芸教区志和組)
発行責任 寺報編集委員会
東広島市八本松町飯田六〇二
電話〇八二四二八〇一四四



記念事業説明会の報告

十一月二十五日(月)、妙徳寺の報恩講の朝席後と昼席後の二回、新発意得度披露記念事業の説明会を行いました。私を含め、総代さんと仏壮会長さん、仏婦会長さんなどで内容をご説明し、新発意が挨拶いたしました。長男はいつの間にか寺の将来のことを考えるようになってくれたり、ご参加いただいた皆さまにも今後を楽しみにしていただくことができましたかと思ひます。

この度は二十年前の本堂屋根葺き替え工事以来の大きな事業となります。ご寄付については多くの方に協力賜ったうえで芳名板にご家族皆さまのお名前もたくさん刻銘してご協力

いただいた記録を永く残したいと考えており、趣意書などにその内容をお示ししております。

寺院活動のためには経費がかかりますが、特に数十年に一度の建物整備事業には多大な費用が必要となります。当寺とご縁の深い皆さまには是非とも篤いご理解とご協力を賜りたく、重ねてお願い申し上げます。

当日の朝のお参りはみょうとくごども園の幼児組約六十人が参加してくれました。午後のお参りは毎年お勤める「正信念仏偈作法音楽法要」、はじめて長男が内陣で私の向かいに座ってお参りしました。

寺院活動の中で有縁の皆さまにご提供できる安心の中に「合同墓」などお墓に関するものがあると思ひます。お墓を維持するためには費用だけではなく実際に管理しなければなりません。「我が家のお墓をこれからどうやって管理したらいいか」よく相談をいただきます。

お墓を管理するならば、代にあつても大切にお伝えくださった先人のご苦労を思いながら、お話いたしました。仏教・浄土真宗の教えとは決して古い時代の遅れた考えではなく、時代や社会がどうあろうとも通用し続ける力ある教えであつて、だから先人方々がされてきたように私たちが伝え続ける努力を怠つてはならないのだとあらためて思ひました。

報恩講報告

前述の通り、妙徳寺の報恩講をお勤めしました。

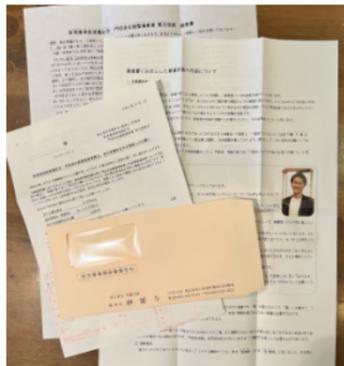
前日二十四日の午後一時から、準備のために約五十人の皆さまにお手伝いいただきました。境内と本堂の清掃、内陣の荘厳とお供えお参りの皆さまへの接待準備など。今年私の子ども達三人も帰郷して参加しました。

もわたり、たとえ困難な時代にあつても大切にお伝えくださった先人のご苦労を思いながら、お話いたしました。仏教・浄土真宗の教えとは決して古い時代の遅れた考えではなく、時代や社会がどうあろうとも通用し続ける力ある教えであつて、だから先人方々がされてきたように私たちが伝え続ける努力を怠つてはならないのだとあらためて思ひました。

おり、すでに百人近くのご納骨(予約を含む)を終えました。お墓ですからいつでもお参りでき、火事の心配もなく永く維持管理することができ、いつも有縁のどなたかがお花を手向けお掃除してくださる、



報恩講と記念事業説明会の様子です。(右下)境内本堂そばに掲示してある過去のご寄付いただいた時(左:昭和62年本堂床下修繕。右:平成17年本堂屋根修繕)の芳名板です。これに倣って今回の芳名板も作成予定です。



ライン登録のお願い

寺報では対応できない、急な予定変更をすぐにお知らせするためにライン登録をお願いしています。普段は行事前に一斉配信しています。なお、お寺にお参りいただくたびにポイ



このQRコードを読み込むか、@985fghgyを検索してください

ントをつけていただくお楽しみもつけました。先日大法座後に粗品を贈呈いたしました。

お墓など相談

寺院活動の中で有縁の皆さまにご提供できる安心の中に「合同墓」などお墓に関するものがあると思ひます。お墓を維持するためには費用だけではなく実際に管理しなければなりません。「我が家のお墓をこれからどうやって管理したらいいか」よく相談をいただきます。

寺の境内地に墓地を構え

行事予定

感染症感染リスク軽減を目的に法座回数を当面減らし、講師控室の雨漏りなどの不都合により当山住職が講師の場合が多くなっています。ご了承ください。

一月九日(木) 午前九時、午後一時

御正忌法要 (おたんや)

講師 八本松町篠 本派布教使
岡本 法治師

三月十日(月) 午前九時、午後一時

春彼岸会 (はるひがんえ)

講師 当寺住職 自勤

新発意得度披露記念事業について

(一月から四月初めにかけての予定)

現在撤去を予定している庫裏の解体が、一月から二月にかけて行われます。それに先立ち役員の方々に庫裏内の什器備品の整理をお願いする予定です。(日時は別途お知らせ)その後三月に起工式、本体工事の開始を予定しています。本堂の行事には支障の無いようにいたします。また、ご寄付をいただいた皆さまには二月に第一回目の受納書送付を致すこととしております。出費多端な折、早速のご寄付ありがとうございます。引き続きご協力を賜りますよう、周囲の有縁の方にお声かけくださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

とても浄土真宗的であるところまでよごんでいただいております。



一語法話

今後ますますお墓についてのご心配は多くなることと思われませんが、お寺だからご安心していただけることがあつたのではないのでしょうか。他にもお手伝いできることがあるかもしれません。どうぞご心配に思われたいことをご相談ください。

親鸞さまは正信念仏偈の中で、釈尊が阿彌陀仏のことをお話しくださった尊さをお讃えくださったうえで、その仰せにしたがうことの利益を三つ挙げられます。その第三がこの六行、釈尊から褒め讃えられる利益を

お示しさせていただきます。

信を獲て見て敬ひ大きに慶喜すれば、すなはち横に五悪趣を超越す。

一切善悪の凡夫人、如来の弘誓願を隨信すれば、仏、広大勝解のひとこのたまへり。

（『正信念仏偈』）

信心を得て、その救いをよろこび敬う人は、ただちに阿彌陀様の力によって迷いの世界の苦しみの連鎖から断ち切られる。善人であることと仏教に背を向ける悪人であること、どのような人であっても、阿彌陀仏の本願を頂くならば、仏はこの人をすべからず救う、汚れない白い蓮の花（梵語「フナリ」カの音訳）のような

人とお褒めになられる。

浄土真宗においての信心とは、私の側で自己だけの救いを願って信を起す心の意味ではありません。私の上に浄土で仏のさとりを得させようという阿彌陀仏の願いが届いたものです。

信は仏より届いたものであるから、お敬いの意味で「信心」とも表現いたします。浄土真宗の信心は衆生の上にあるのですが、衆生の上にはなく仏より届いた本願のはたらきです。

（『信心』）

親鸞さまはよろこぶ心を「歡喜」と「慶喜」と使い分けておられます。「歡」はまだ実現していないが必ず実現するであろうこと、「往生」や「成仏」について用いられています。「慶」はすでに実現したことを「よろこぶ」という意

味で用いられます。ここでは「慶喜すれば」です。

仏の願いが私の上に届いたならば慶喜のころとなって、私の身の上で起こったような苦しみの問題とならない、むしろその困難も尊い縁であったと苦しみを超えていく生き方に変えられていく、そのような人のことを親鸞は、よくぞこの阿彌陀仏の願いに目ざめた人になってくれたとお褒めくださり、泥中

にあって汚れることなく、一層美しく咲く蓮のような人であるとお讃えくださるのです。

（次号へ続く）

私はつい、しあわせを外に求めてばかりでした。あれがなくては心配だ、あれがなくては満たされない人にならなければならない、と願っていました。

地獄とは大焦熱・焦熱・大叫喚・叫喚・衆合・黒繩・等活・無間という八

大が説かれるなど、不幸と苦しみの一番ひどい所で苦しみが絶えない世界。餓鬼とは、餓えて欲しい

得たいと思っても手にすることが出来ない世界。畜生とは、自分の生命を



妙徳寺ホームページ

<http://myotoku-ji.sakura.ne.jp/>



「書道教室」

ホームページ内の「行事カレンダー」に稽古日を掲載しています。妙徳寺LINEでも随時お知らせいたします。（毎月3回程度の金曜日 午後2時半～午後5時の間）



※金谷雷聲先生(蕾門会)による幼児・児童・大人対象、硬筆・毛筆教室です。申込は金谷先生のお電話0823-82-9565 または妙徳寺へご連絡ください。

「おみのりサロン」開催予定日

1月20日(月) 2月19日(水) 3月7日(金) 午後2時より1時間半 (住職が本堂に待機、相談をお受けします)

「写経の会」

1月24日(金) 2月28日(金) 3月28日(金) それぞれ午後2時より 申し込みは代表_西本さん(428-2466)、または妙徳寺へ

「生きていくための仏の教え仏教基礎講座」

1月は休止します 2月8日(土) 3月8日(土) それぞれ午後2時より

申し込みは代表_廣川さん(428-5935)、または妙徳寺へ

「妙徳寺仏教壮年会例会」(原則毎月第2土曜日)

1月11日(土) 午後4時より 新年懇親会 2月8日(土) 午後6時より 定例会 3月8日(土) 午後6時より 寺報編集会議

四十八願について

第一願「無三悪趣」

掲載を続けてきた「仏事作法」をしばらく休止して、今回から仏教壮年会会員の玉田義幸さんと一緒に、法蔵菩薩の四十八願を一つずつみていこうと思います。蜂屋賢喜代氏の『四十八願講話』を参考にして

親鸞さまが中心の経典とされた『仏説無量寿経』には、阿彌陀仏となられる前の法蔵菩薩は全ての悩み苦しんでいる者を救いたいという願いを、師仏である世自在王仏の前にて四十八通り建てられました。もつとも言いたい願いを表わすために、様々な言葉を尽くして願いを重ねておられます。今回は第一番目に挙げ

られた願いです。第一願 無三悪趣の願 「たこえ われ仏を得たらんに 国に地獄 餓鬼 畜生あらば正覚をとり」 私の造る浄土に三悪趣(地獄、餓鬼、畜生)の世界が在るようなら私は悟りを開きません、この願を建てられました。それは極楽世界を造るにはまず苦しんでいる者がいないよう

にしなければならぬ、と願っていました。地獄とは大焦熱・焦熱・大叫喚・叫喚・衆合・黒繩・等活・無間という八大が説かれるなど、不幸と苦しみの一番ひどい所で苦しみが絶えない世界。餓鬼とは、餓えて欲しい

得たいと思っても手にすることが出来ない世界。畜生とは、自分の生命を



おっしゃる。そのためには、まず、このことからお誓いになったのです。(次号へ続く)

志和組テレホン法話「みのりの電話」

082-433-4989

1月 1日	西蓮寺	西浦 憲雄
1月 11日	光源寺	堀 靖史
1月 21日	報専坊	松島 純以
2月 1日	八本松南	玉田 義幸
2月 11日	天龍寺	天野 由昭
2月 21日	長松寺	笠岡 淳聖
3月 1日	八本松篠	岡本 法治
3月 11日	報専坊	松島 典子
3月 21日	妙徳寺	大江 利生

志和、八本松川上地区の本派寺院13カ寺のテレホン法話です。3分程度のお話を24時間いつでもお聞きいただけます。ぜひ、電話でもお聴聞してください。